

咬合学概論

責任者名：高津 匡樹

学期：後期

対象学年：3年

授業形式等：講義

◆担当教員

高津 匡樹(歯科補綴学 I 准教授)

◆一般目標 (GIO)

歯科補綴治療において生体に調和した咬合機能の維持と回復を図るため、咬合の重要性、顎口腔系の生理機能において咬合の果たす役割、および円滑な下顎機能運動を維持するための咬合の在り方などについて知識の蓄積を図り、三次元で咬合の在り方を理解する。

◆到達目標 (SBO s)

- ①咬合について説明できる。
- ②咬合および顎口腔系の維持と回復の意義について説明できる。
- ③顎口腔系に関与する器官とその機能について説明できる。
- ④下顎運動と下顎位について説明できる。
- ⑤歯の接触と咬合様式について説明できる
- ⑥咬合異常とブラキシズムについて説明できる。
- ⑦咬合器の使用目的と使用方法について説明できる。

◆評価方法

定期試験 (50%)、平常試験 (40%)、および課題 (10%) にて成績評価を行う。平常試験は第 9 回の授業時に対面にて実施する。平常試験後は資料を配付して解説を行う。

◆オフィス・アワー

担当教員	対応時間・場所など	メールアドレス・連絡先	備考
高津 匡樹	月曜日 17:00~18:00 歯科補綴学第 I 講座	takatu.masaki@nihon-u.ac.jp	

◆授業の方法

参考図書、講義資料に基づいて遠隔講義を行う。毎講義終了時に理解度を確認するための課題を出す。第 9 回の講義は 11 月 2 日 (水) の 5 限に対面で平常試験を行い、試験終了後に資料を配付して解説を行う。

【実務経験】 高津匡樹

日本大学歯学部歯科補綴学第 I 講座に在籍し、咬合に関わる研究と臨床に従事している。それらの経験に基づいた講義を実施することで、より一層の理解を深めることが出来ると考える。

◆教材 (教科書、参考図書、プリント等)

種別	図書名	著者名	出版社名	発行年
講義資料				
参考書	歯科補綴学専門用語集 第5版	日本補綴歯科学会	医歯薬出版	2019
参考書	歯科技工別冊 目で見る咬合の基礎知識	古谷野潔・矢谷博文	医歯薬出版	2002
参考書	最新歯科技工士教本 顎口腔機能学	全国歯科技工士教育協議会	医歯薬出版	2016

◆DP・CP

DP4

コンピテンス:問題発見・解決力

コンピテンシー:自ら問題を発見し,その解決に必要な基本的歯科医学・医療の知識とスキルを修得できる。

CP4

歯科医学の基礎知識を体系的に修得し,臨場的な視点で問題を解決する力を養成する。

◆準備学習(予習・復習)

事前に講義資料を提示するので, 予習して講義に臨むこと。講義後は, 講義資料やノートをまとめて復習すること。

◆準備学習時間

予習と復習をそれぞれ授業時間 (50分) 相当を充てて行うこと。

◆全学年を通しての関連教科

歯冠補綴学, 歯冠補綴学実習 (3年後期)

総義歯補綴学 I, 部分床義歯補綴学 I, 部分床義歯補綴学実習 I, 架橋義歯補綴学, 架橋義歯補綴学実習, 顎機能治療学 (4年前期)

総義歯補綴学 II, 総義歯補綴学実習, 部分床義歯補綴学 II, 部分床義歯補綴学実習 II, 固定性義歯補綴学, 顎機能分析学, 顎機能分析演習 (4年後期)

◆予定表

回	クラス	月日	時間	学習項目	学修到達目標	担当	コアカリキュラム
1		8.26	7	【遠隔】 1. 咬合と顎口腔系の機能 1) 咬合の概念 2) 咬合と顎口腔系の機能 3) 咬合の維持と回	・顎口腔系における咬合の役割を理解し, 咬合の維持と回復の重要性について説明できる。	高津 匡樹	E-2-2) 口腔領域の構造と機能

				復の意義			
2		9.2	7	【遠隔】 2. 顎口腔系の構成 1) 歯・歯列 2) 歯周組織 3) 骨	<ul style="list-style-type: none"> ・咬合に関連する顎口腔系の各構成要素について、その形態と機能を関連づけることができる。 ・歯や歯列の形態と咬合の関係を説明できる。 ・咬合における歯周組織の役割を説明できる。 ・顎口腔系を構成する骨を列挙することができる。 	高津 匡樹	E-2-2) 口腔領域の構造と機能 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能
3		9.9	7	【遠隔】 2. 顎口腔系の構成 4) 顎関節	<ul style="list-style-type: none"> ・咬合に関連する顎口腔系の各構成要素について、その形態と機能を関連づけることができる。 ・顎関節の構造と機能を説明できる。 	高津 匡樹	E-2-2) 口腔領域の構造と機能 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能
4		9.16	7	【遠隔】 2. 顎口腔系の構成 5) 筋 6) 口腔粘膜 7) 脳・神経	<ul style="list-style-type: none"> ・咬合に関連する顎口腔系の各構成要素について、その形態と機能を関連づけることができる。 ・顎口腔系を構成する筋の走行と機能を説明できる。 ・顎口腔系の神経支配と役割を概説できる。 	高津 匡樹	E-2-2) 口腔領域の構造と機能 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能
5		9.30	7	【遠隔】 3. 咬合に関する基準点・基準平面 1) 下顎運動分析に関する基準点・基準面 2) 咬合に関する水平基準面	<ul style="list-style-type: none"> ・下顎運動の分析に必要な基準点・基準面を説明できる。 ・歯科補綴学において重要な水平基準面を列挙し、その臨床的意義を関連づけて説明できる。 	高津 匡樹	E-2-2) 口腔領域の構造と機能 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能
6		10.14	7	【遠隔】 4. 下顎の基本運動 1) 下顎の基本運動 2) 基本運動における切歯路と顎路	<ul style="list-style-type: none"> ・下顎の前後、側方、開閉運動における切歯点と顎頭点の三次元的な運動経路について説明できる。 	高津 匡樹	E-2-2) 口腔領域の構造と機能 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能

7		10.21	7	<p>【遠隔】</p> <p>5. 下顎の限界運動と下顎位</p> <p>1) 下顎の限界運動範囲</p> <p>2) 下顎位</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・下顎の限界運動範囲を三次元的に説明できる。 ・代表的な下顎位とその臨床的意義を関連づけて説明できる。 	高津 匡樹	E-2-2) 口腔領域の構造と機能 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能
8		10.28	7	<p>【遠隔】</p> <p>6. 下顎の機能運動</p> <p>1) 咀嚼運動</p> <p>2) 嚥下時の下顎運動と下顎位</p> <p>3) 発音時の下顎運動と下顎位</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・咀嚼運動の特徴について説明できる。 ・嚥下および発音時の下顎位について、その臨床的意義と関連づけて説明できる。 	高津 匡樹	E-2-2) 口腔領域の構造と機能 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能
9		11.2	5	<p>【対面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「平常試験1」 ・平常試験の解説 <p>※水曜日(11/2・5時限)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第1～8回の授業内容を確認するとともに、理解度を深めることができる。 	高津 匡樹	E-2-2) 口腔領域の構造と機能 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能
10		11.11	7	<p>【遠隔】</p> <p>7. 咬合接触</p> <p>1) 歯の形態と機能</p> <p>2) 咬頭嵌合位における咬合接触</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・機能咬頭、非機能咬頭および被蓋関係について、下顎運動と関連づけて説明できる。 ・咬頭嵌合位における咬合接触について説明できる。 	高津 匡樹	E-2-2) 口腔領域の構造と機能
11		11.18	7	<p>【遠隔】</p> <p>7. 咬合接触</p> <p>3) 偏心位における咬合接触(咬合様式)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・偏心位における咬合接触(咬合様式)を、有歯顎および無歯顎に分類できる。 	高津 匡樹	E-2-2) 口腔領域の構造と機能
12		11.25	7	<p>【遠隔】</p> <p>8. 咬合干渉とブラキシズム</p> <p>1) 正常咬合と咬合異常</p> <p>2) 咬合干渉</p> <p>3) ブラキシズム</p> <p>3) 咬合干渉とブラ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・正常有歯顎者における咬合の特徴を説明できる。 ・咬合干渉(早期接触・咬頭干渉)について説明できる。 ・ブラキシズムについて説明できる。 ・咬合干渉やブラキシズムが、顎口腔系にもたらす障害について説明で 	高津 匡樹	E-2-2) 口腔領域の構造と機能

				キシズムによる障害	きる。		
13		12.2	7	【遠隔】 9. 咬合器 1) 咬合器の使用目的 2) 咬合器の基本構成 3) 咬合器の調節機構と分類	<ul style="list-style-type: none"> ・咬合器の使用目的について説明できる。 ・調節機構に基づいて顎路型咬合器と非顎路型咬合器に分類できる。 ・顎路型咬合器を平均値咬合器, 半調節性咬合器, 全調節性咬合器に分類できる。 ・調節性咬合器を顎路指導要素の違いにより分類できる。 	高津 匡樹	E-2-2) 口腔領域の構造と機能 E-3-4)-(1) クラウンブリッジによる治療
14		12.9	7	【遠隔】 10. 咬合採得と模型の咬合器装着 1) 平均値咬合器における咬合器装着 2) 半調節性咬合器における咬合器装着の手順 3) フェイスボウトランスファー 4) チェックバイト法 5) 半調節性咬合器の調節 6) 全調節性咬合器の調節	<ul style="list-style-type: none"> ・咬合器への模型の装着および咬合器の調節方法について説明できる。 ・フェイスボウの使用目的と取り扱いについて説明できる。 ・チェックバイト法について説明できる。 ・半調節性咬合器の顎路（傾斜）角および切歯路（傾斜）角の調節方法を説明できる。 ・全調節性咬合器の調節について概説できる。 	高津 匡樹	E-2-2) 口腔領域の構造と機能 E-3-4)-(2) 可撤性義歯（部分床義歯、全部床義歯）
15		12.16	7	【遠隔】 11. 咬合検査 1) 基本的検査法 2) 形態的検査法 3) 機能的検査法 12. 咀嚼能力検査 1) 客観的検査法 2) 主観的検査法	<ul style="list-style-type: none"> ・咬合干渉や咬合接触の不均衡の有無など, 咬合接触状態の検査法を説明できる。 ・咀嚼能力を直接判定する方法について, 客観的検査法と主観的検査法に分けて説明できる。 	高津 匡樹	E-2-2) 口腔領域の構造と機能 E-3-4)-(1) クラウンブリッジによる治療 E-3-4)-(2) 可撤性義歯（部分床義歯、全部床義歯）

